

鵬 鷲

HOSAI



八代経済開発同友会
(通巻第121号)

<http://www.goroyoka-yatsushiro.com>
E-mail:jimukyoku@goroyoka-yatsushiro.com

「鵬鷲」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬(おおとり)が飛ぶ(=はるかなかなたの)空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



代表幹事挨拶 一年を振り返って

平成28年度 八代経済開発同友会

第53代 代表幹事 杉本 隆之

とにかく、激動の一年でした。一番強烈だったのは4月14日と16日にM7クラスの熊本地震です。この熊本地震では、多くの尊い命が失われ、県内に甚大な被害をもたらしました。これからどうやって生活していくのか? 自宅が被災し、お店が被災し、これまで当たり前と思っていた生活が、いかに有難く、かけがえのないものであるかを考えさせられました。

全国から押し寄せたボランティアの方々。国と県と市の連携によって、熊本の輝きを再び取り戻すために、力を合わせたこと。人間性。正義感。一体感。改めて、日本人って素晴らしいと感じました。

八代経済開発同友会では、地震の翌月5月に松村参議院議員に「熊本地震からの復興」というテーマでご講演して頂きました。グループ補助金等、実にタイムリーで、有益な話でした。

良いこともあった。これまで3年に渡って取り組んできた八代妙見祭のユネスコ無形文化財の登録が昨年12月に、全国33の「山・鉦・屋台行事」とともに、ユネスコ無形文化遺産登録が出来ました。今後も登録スタートの年として、八代の宝を熊本の宝、世界の宝へと進化させなければいけません。

ビッグニュースとして、今年1月には、ロイヤルカリビアン社による八代港のターミナルビルと商業施設の建設が3年以内に着工されると発表になりました。県においても、駐車場の整備がされますし、蒲島県政の任期3年の中で、八代物流センター構想もあります。八代港のポテンシャルを最大化して、八代物流センター構想のための振興をして、その後の八代・天草架橋建設の実現に向けて動き出したいと思えます。

八代にとっては、追い風です。この流れは、「観光立国」を掲げ、それを成長戦略の柱にインバウンド振興を据える日本の姿を反映したものです。この八代のマーケティング戦略を作り地域を挙げて、おも

てなしをする。その一つがクルーズ船に対しての駐車場の整備。八代妙見祭展示場。八代の農産物を販売する「まちなか物産館」を提案します。納入には、地元の商店や会社を優先する。八代新庁舎では、日奈久温泉スパを市庁舎の屋上に作り、図書館でコーヒーを飲みながら夜間も営業する。図書館は文化活動の拠点として重要です。この市民目線でサービスを充実すると中心市街地は必ず活性化します。昨年は、八代市議会に「八代市新庁舎は、集中型でまちづくり拠点機能を拡充し活性化につなげる」という陳情書を提出しました。この建設に当たっても地元の会社を最優先すべきです。これまで、この八代にこれだけの投資が行われるのは初めてだと思います。ぜひ、八代市議会も八代市も八代の発展を考えて、市民ファーストで決断してほしい。熊本市も約700億円をかけて、桜町の再開発でMICE施設などが建設されます。また、JR九州が2021年に開業を目指す熊本駅ビルは、約400億円をかけて建設されます。商業施設「アミュプラザ」が入り、同社ホテルが整備されます。熊本市との都市間競争もありますが、この八代へ観光で遊びに来てもらえるチャンスになると思います。

この3年が勝負です。八代妙見祭も含めて、地域資源を最大限に活かした産業づくりを育成し、付加価値の高い商品を開発し、海外との販路を広げてゆくことも重要です。八代の地域創生の実現に向けて、八代港のクルーズ船の振興をする。これらの投資を経済の循環につなげましょう。

今後も八代経済開発同友会として、力強く情報発信していきたいと思えます。

ぜひ、一緒に、八代の経済的持続的な発展のために「夢を描き、行動し、イノベーションを起こしましょう。」

同友会事業報告

平成28年度 経友会ゴルフコンペ

毎年恒例である経友会ゴルフコンペが開催された。



平成28年度 12月忘年会例会

今年最後となる忘年会例会は、衆議院議員 金子恭之先生にお越しいただき、八代地域の今後について特別講演をいただいた。

金子先生は今年度の八代経済開発同友会例会に3度もお越しいただき、八代を始め県南地域を含めた発展可能性について。また、八代地域への抱負を語っていただいた。



平成28年度 1月 臨時総会 並びに 八代商工会議所役員議員・八代経済開発 同友会会員 合同新年祝賀会

八代経済開発同友会 1月臨時総会並びに、八代商工会議所役員議員・八代経済開発同友会会員 合同新年祝賀会が開催された。1号議案：平成29年度組織図の件・2号議案：平成29年度 役員選出の件・3号議案：会則変更 副代表の中から筆頭者を選定する件について満場一致ですべて承認された。

総会終了後の合同新年祝賀会では、八代商工会議所 松木会頭の年頭挨拶で始まり、今後の八代の夢・希望を語る和やかな合同新年祝賀会であった。



第1回Yatsushiro Cup 高校選抜バドミントン大会(通算11回大会) 夢から実現へ…八代⇄天草架橋建設

本年度より八代天草架橋建設促進民間協力期成会の主催となり、八代東高校・八代白百合学園に於いて九州各県並びに沖縄選抜・山口県・岡山県の強豪校が参加し2日間に渡り熱戦が繰り広げられた。

(この大会への参加条件は各県で1位もしくは2位であり、選手のレベルアップと地域活性を目的とした大会である)

平成28年度 2月例会

八代経済開発同友会2月例会は 八代市企画振興部 企画政策課の方々にお越しいただき「八代地域におけるにぎわいの創出」についてワークショップ形式にて行われた。

八代市次期総合計画策定を控え、これからの経済活性化を中心とした「まちづくり」の方向性について「産業の活性化に必要なこと」をメインテーマとして、八代経済4団体の参加者より様々なアイデアと意見交換が行われた。



平成28年度 3月例会 ワイン選びのポイント

メルシャン八代工場

清水 庸輔 氏 (シニアソムリエ)

今年度最後となる3月例会は、各委員会より活動報告及び、メルシャン八代工場 清水 庸輔 氏 (シニアソムリエ)にお越しいただき「ワイン選びのポイント」について講演をいただいた。

各テーブルにメルシャン八代工場からお越しいただいたソムリエの方々にサービスいただきながら、料理に合わせたワインについて奥深い説明をいただいた。

料理とワインの組み合わせは「似た者同士」がセオリーであるが、自分流の組み合わせる楽しみ方が一番ではないかと締めくくられた。



「The 対談」夢を現実に!!

～県南及び八代のポテンシャルを最大活用～

対談者：衆議院議員 金子恭之 氏・八代市副市長 永原辰秋 氏

熊本県議会議員副議長 小早川宗弘 氏・八代経済開発同友会代表幹事 杉本隆之

テーマ 八代物流センター構想

杉本代表幹事

八代物流センター構想について、平成13年ですけれども、沖田市長の時に市の八代市の基本計画の中にこれも入っていたのですけれども、結局その時も港とか高速インターチェンジというような、出てきてですね、ここは是非、物流センター構想になるべきだというのはあったんですけど、なかなかこれが進展しないまま、その時はそのまま流れてしまったのかなと思いますけれども、今、現状では新幹線・新八代駅もでき、高速もあるその他、港も重点港湾として整備された。そして、西回り自動車道もちゃんと出来ました、という事になれば、ここは本当、ポテンシャルとしましては非常に重要な地区・地域というふうになるんじゃないかなと思っております。それを言えばですね。どうやってこの一步をこの先進めるのか、という所をですね、まだまだここは何も出ていない状態かなと思いますけれども。

ここは永原副市長さんにお聞きしたいですけれども、ちょうどあの平成18年ぐらいに永原副市長さんが街づくり交付金というような形で新八代駅前の整備、道路整備、公園整備、また、よかとこ物産館みたいな形でそういった整備をされました。

その頃にその物流構想というもの若干あったのかな、というふうに感じますけれども、そういった所の結びつきというのはその時にはなかったのか？と。その辺をちょっと聞いてみたかなと思いますけれども。

永原副市長

はい。今、新駅周辺整備につきましては、物流構想という事ではなくて、当時、中心市街地活性化、この街の中をどうするか？という議論の中で、新駅周辺とここを繋いでいこう、ということの中に新駅周辺の開発というものがありまして、20ヘクタールを市で開発しようとしたのですが、埋蔵文化財であったり、土地の話があったりで、先に公共がやるというのは難しいという事で環境整備だけやって、あとは民間の方々に入っていたら、それを進めておる所ですけれども。ええと、具体的に話をしてよろしいですか？

まず、物流拠点構想というのは、具体的にクローズアップされたのは、知事3選目のマニフェストにしっかり書かれていた、というのがございまして。これを受けて我々は今それに向けて色んな作業をしておりますが、市は、そういった場所をどこにするんだ？というのをきちんと押さえておかないといけないという事で、適地調査をいたしました。

市内5ヵ所、大体こういう場所がいいんじゃないか、という位置付けをやりまして、1つは、鏡・アグリビジネスセンターが出来ておりますこの周辺。千丁の以前、工業団地を造ろうと動きがあった場所、八代インター周辺、八代南インター周辺、外港ですね。

この辺を調査して、今現在1番目の候補として、位置付けしているのが八代南インター周辺を位置付けしております。

ただですね。今1番ネックになってきているのが実は



八代は優良農地という事で一遍に開発が出来ない。先にごこのだけのエリアを空けておく、というのは非常に難しい所ですね。

じゃあ、どうやったら開発ができるかという、個別な案件が具体的に出てきたら農業振興を法律に基づいて外すとか、そういう作業が出てくるものですから、現在個別な案件がない状態の中で、そのエリアを先に空ける、というのは非常に難しい状況です。

ですから、位置付けはやっておりますけれども、そこに個別な案件として少しずつ企業誘致を行って位置付けていくということが、まずは作業としましては、現実的な話かなと思っております。

そこに食品関連の企業さんを誘致しておいていくというのが、まず一番早いかなあと思います。

八代南インターという位置付けはですね、実は南部幹線を港とつなぐという事で大事な所なんですけれども、実は今まで市がずっと道路を造ってきてきましたけれど、やっぱり県の方が自分たちがやるんだ、ということで橋、具体的に新開町の裏に橋をかけようという作業で用地買収に着手される時期になりました。

ずっと県でやっていく、という方針も決められましたので、ものすごくこれが力になってくる。その辺に我々は一生懸命企業誘致とか色んなものをアピールしながら八代の地域、物産、農産地、そういったものをアピールしながら企業誘致を一つずつ誘致しながら一つまとまりというか、そういったものを位置付けていく。

そうすると外港に外国から船を呼びこみ、そこから物を出していく。そういった作業を含めて一緒にやっていたら、現実のものになってくるのかな、とっております。

金子衆議院議員

あの、年末、私も熱く語らせていただいた北の鳥栖、南の八代で頑張っていこうと。国交省の港湾局もやりましょう、と言って頂いた。要は今、代表幹事と永原副市長さんがおっしゃった事なのですが、どっちが先かという事があるのですね。港湾整備を先にやるのか？

いくら産業団地を造ったとしても、港湾がそれに堪えるものでなければ、ダメなんだろうと思います。

今、まだそれが続いているという事は、まだそれだけの需要がないんじゃないか？港湾整備がまだ途中だという

事があってですね、それをもっと進めればいやおうにもそれが進んでいくんじゃないかと思えます。

港湾整備が進んでいるとおっしゃったように、八代市長の悲願であった南部幹線も何とか県を押さえ込んで実行できることになったのですが、さっきの夢を実現するという事に繋がっていくのですが、15、16年前は、時の知事がですね、あまり公共事業がお好きじゃなかったんですね。それで国交省から港湾整備のために来ていた課長を帰しちゃった。しかも後任も要りません、という事で、実は港湾整備が進んでいなかった所があったんですが、その時、知事には、たぶん経済効果を数字でしっかり表せれば、雇用がこれだけ増えて、経済効果がこれだけあるよ、と。それを出せばきっと分かってくれるんじゃないかという事で、時の八代の港湾の所長をお願いして数値を出していただきました。

それを熊日新聞社がしっかり受け止めて頂いて、連載記事にして頂きました。それでちょっと流れが変わりましてね、知事もじゃあ話を聞いてみようじゃないか、という事で実は皆さんの身近にあるのでこの八代港がどれだけのポテンシャルを持っているか？

あまり、まあ凄いなーと思わないかと思われませんが、大体、港というのは、防波堤があるんですね。八代港は防波堤がありません。自然の良港です。

しかも、今へっこんでいる所を入れれば、1.5キロメートルのまっすぐな岸壁なんですね。こんな所は、全国見てもそうないんですね。

あとは深さの問題で10m・12m、今は世界の標準が14m~17mに移動しようとしているんですが、八代の14mもなんとか2015年に14mをつくって、今は10mの所を12mに来年の3月までに掘ってしまいます。

となるとですね、それとただ岸壁がよければいい訳ではなくて、コンテナ船が2倍・2倍まではいなくても、かなりの割合で増えておりますけれども、それを受け止めるだけのガントリークレーンがないんですね。8列しか届かない、13列あるのに届かない港には来てくれません。

それで小早川副議長たちにも頑張っていたら、あと1年半後にはフルガントリークレーンというのが出来るんです。深さが出来て、そしてそれを荷降しをする設備が出来れば、それはですね…。

今、コンテナ船もどんどん増えているそうです。この数年ですとね、八代のコンテナ船は31%増えたり、2ヶ年で増えているんですね。しかも、クルーズ船も実は来年70隻ですけれども。

今、止まっているクルーズ船の所だけでは、貨物コンテナ船とか、あるいは飼料とかチップとか、そういうものがあるからなかなか入って来れない所を港湾局と相談をして、今、10mの所を12mに来年3月に掘って、しかも世界最大のクルーズ船が停まれるだけの岸壁を整える事になっています。

そうすると、2隻、世界最大の船が停まれるくらいですから、貨物船とクルーズ船の仕分けが出来てくるんですね。そうすると、もっと八代港に来たいけど、クルーズ船が入ってきてなかなか荷下ろしができない、という事も解消されていく。

物流の港、あるいは人流の港として調べていけば、八代は非常にポテンシャルのある所なので、そこで土地が必要になってくるんですね。フードバレー構想があるので冷蔵倉庫が足りない。荷下ろした時に、冷蔵倉庫が無ければ、生鮮とかそういったものができません。だからこれから、それを通していただける様な八代港を造っ

ていく、というのが現状でございますので、着実に進んでいきます。

さっき言いましたようにスライドに出てたクルーズ船専用岸壁なんて、僕は5年以内で出来ていくんじゃないかなという希望を持って、夢を持って取り組んでいきますので、是非、市役所においても、それから県議会においてもですね、そういう事を踏まえて、利便性が増していけば必ず人がきますから。物が動けば人が動く。人が動けばお金も落ちますので、是非、そういう事で物流拠点として…。

あの鳥栖市は、港が無いんですよ。八代は、新幹線もあって高速道路接続点、それに港という大きな武器を持っているので、鳥栖を越えることが不可能ではないと私は思っておりますので、その地の利を生かして頑張りたいと思います。

小早川県議会議員

はい。ええとですね、八代物流拠点構想という言葉が非常に衝撃を受けてるといえるか、私もですね15年間、県議をしておりますけれども、もちろん皆さんご承知の通り、八代には高速インターチェンジ・新幹線・港があるということで、非常に交通の要所・結節点という事で、今までも物流拠点構想はいろいろな方からお話を頂いております。

実はですね、私も、地域委員の中でそういう交通の結節点ということで、ずっと県議会の中でも、人や物やお金が集まるような地域づくりをしていかんといかん、という風な事を議会でも、いろいろな場面でも発言してきましたつもりであります。

資料の4ページを見て頂きたいのですが、そういう県議会での発言がこういう意味かどうか分かりませんが、4ヵ年戦略、蒲島県政の2期目の戦略の中でですね、八代がどういう風になるかというのを1番、蒲島県政の2期目の4ヵ年戦略という風なことで「南九州の拠点都市としての八代の活性化を図ります」と明記されています。明記されることと位置付けていることは、県の最高位の計画、最上位の任務です。

これは行政の方々は分かると思いますが、たったこれだけの文章か、と思われるかもしれないですが、位置付けていることと、位置付けていないことは全然違うんですね。非常に大雑把な書き方でありまして、それが拠点都市って何？それは人が集まる所たい、物が集まる所たい、お金が集まる所たいという事で、どんどん・どんどんとですね、県の政策をですね、引き出していく事であるという。

まずは、こういった話をやってきたつもりでありますし、蒲島県政はこの言葉・位置付けのとおり、先ほど副市長から話がありましたとおり、県南のフードバレー構想・アグリビジネスセンターは6億円、そして金子代議士に紹介していただいたフルガントリークレーンに3億円の予算を付けていただいておりますし、もちろん金子代議士には、長年、八代港5.5万トンバースなど非常にお力添えをしていただいております。

さらにそうゆう風に八代港の拠点づくりということで、クルーズ船もどんどん入って来ているということで、2期目、樺島知事も一生懸命に頑張られたと思っております。

そういう中で、資料の2番目、知事選のマニフェストを皆さん見た事がないと思いますが、小さくですけどもコピーしてきました。どういう風な事を書かれているかというの、四角囲みで書いております。「交通結節点としての機能が高まる八代地域を南九州の物流拠点化する。八代物流拠点構想を展開します」と書かれていま

す。

知事も思い切ったね！と思いました。ただこれは知事候補者としての公約でありますから、県の方ではまだオーソライズ（認定）されておられません。

本来ならですね。これのマニフェストを元に、新4ヵ年戦略を策定する中でですね、八代という文字を入れて、この拠点構想を物流拠点が位置付く筈だったのですけれども。

残念ながら4月14日・15日の熊本地震が発生しまして、復旧・復興プランの方が優先されることになった。この中では、八代物流拠点構想という記載がない…。

非常に期待が大きかっただけにですね、残念な思いをしていることでもあります。

今はですね。言葉だけが残っている状況です。私たちが県議会で取り組んでいることは、知事があの時八代物流拠点構想と言っていたのは、具体的な内容は何なんだ？と言うことを議会で質問したり、導き出していく事。ちゃんと行政の文書の中に残していく事だと思いますし…。あと1つはですね、今、言葉だけが残っております。

県の方では、言葉だけが残っておりますし、是非、こういう民間の経済団体の皆様方からいろいろな提案をいただき、具体的な中身をですね、決めていただければなぁと、いう風に思いますので、是非、代表幹事の方にもこういった所に、どういった機能の物流拠点がふさわしいんだ、というような提案をしていただければ、と思います。

最後に、その資料の最後の4番、選挙期間中の知事の発言・八代遊説の発言を私がメモをしておりました。ちょっと読みます。

【私は、八代を中心とする物流拠点をつくりたいと思っております。熊本はサービス業がとてつもないので、鳥栖のようなサービス業の盛んな物流拠点を、八代、県南の方につくりたいと思っています】

この発言はですね、実は4月ぐらいに知事に就任されてから職員を前にしてですね、職員訓示があったんですけども。これは職員の方から聞いたのですが、こういう事を、同じような事を選挙期間中訴えられた事を職員訓示の中でおっしゃったというような事がありますので、知事のそれに対する思いというのはですね、非常に高いものがあるものと思いますし、職員も、その覚悟で八代を活性化していくという風な事がありますので、こういった事実があったという事を皆さんにお伝えして、私の説明とさせていただきます。

金子衆議院議員

言葉はそうかもしれないですけど、実はもう着実にそれは進み始めているのです。

例えば八代港においては八代島よりの一番端っこの方ですね、今、クレーン車が止まっているところ。

ここに14m岸壁を作って、そこに石炭とかチップを持ってくるようにしていました。



しかし、よく港湾計画を見たときにですね、一番端っこの石炭を持っていっても、それを、例えば日本製紙等が石炭ヤードを持ってくる。これは非常に利便性が悪いんですね。しかも今のコンテナヤードについては、後ろにそのコンテナを置く背後地がないんですね。

それで途中でこれは変えようじゃないかということで、本来石炭とかを置くところをコンテナヤードに変えました。

そしてそこにフルガントリークレーンを作ることで、そっちにコンテナ船を持っていく。で、近くの方に穀物、石炭、チップ、一般貨物ということで、そういう風になっているんですね。

そうすると石炭とかチップもすぐその後ろに背後地がありますので非常に効率的である。しかもコンテナヤードを一番端っこのにするのですが、そこにフルガントリーができますと、その後ろにコンテナ農産品の輸出の利便性向上のための土地、あるいは冷凍・冷蔵倉庫がその後ろに出来るんじゃないか。

あるいは穀物サイロ等々の予定地の裏に、農産品の輸出関連企業の誘致予定地ということで、県の中ではすでに書いてありますので、物流拠点としての言葉かどうかは知りませんが、既にそういう形で港湾計画を変更して、既に動いているということになります。

要は、使い勝手のいい港であれば、物流拠点として利用できるんじゃないかと思えます。で、まー、八代南とかいろいろあるんですけども、多分今の八代インターでは難しいというのは、土地がないということがあるんですね。

鳥栖の場合は、インターチェンジの周りにそういう物流土地を造ったのでひょっとしたら八代の場合は鳥栖と違うような考え方で、港の中で、例えば入ってきたものをトラックに載せ変えとか、あるいは加工施設を置くとか、という考え方もあるのではないかな？というふうを考えております。

ですから国も今、精一杯やろうとしておりますので、ぜひ副議長からまた知事はもうよくわかっておられる話なので、さらにそれを前に進めるためにもよろしく願います。国の方は私が責任をもってやっておりますので、すでにそれは動いておりますので、是非よろしく願います。

杉本代表幹事

力強い発言で本当うれしく思います。国と県と市と「チーム熊本」とこの八代物流拠点センター構想というものを、是非実現してほしいものと思います。

市だけの予算でやるというのは不可能なのかなと思います。やはり県もそこに参画して、県の構想にも実際そこにあったわけですから、国もそこに加わっていただいて、それを一緒に大きなものにしていただきたければと思います。

八代にとっては、この3本柱で物流センター構想は、鳥栖と同じように伸びていけばな一、と思っておりますので是非ともよろしくお願いいたします。

※司会から埋め立てという選択肢は？との問い掛けについて。

杉本代表幹事

八代の干潟を埋め立てて、そこに昔、空港構想があったりですね。

中九州空港の構想があったりとか、そこに自衛隊を造ったらどうだとか、そうしたらそんなもの、橋なんてものがすぐ出来るんじゃないの。昔そんな夢みたいな話がありました。

ただそこに例えばインターチェンジの近くは地価も高



騰しているし、なかなか難しいという事だろうか。そう思えば、埋め立ててもどうかかなぁというふうに、一瞬感じたんですけども、埋め立て費用も実際計算してみると、坪30万円ぐらいしているなぁという事ですね、それを考えると安い所に八代南ぐらいの所に、今、広範囲に空いてますんで、その辺は農地でしょうけど、除外とか、その辺の所があるんでしょうけれども、そっちの方がいいのかな。先ほど言われたように港の近くにあった物流拠点としていただいたほうがいいのかなぁと考えました。

金子衆議院議員

やっぱり、今の状況でいくと、八代海で漁業をやっている方がおられるんで埋め立てるのは、なかなか厳しいのかなぁと思いますが、まぁ、それよりも市がどのように考えられるかで、加賀島がもう埋め立てられておりますよね。僕はあそこにクルーズ船の専用岸壁をどうかと思っただんですが、あそこはまだ交通の便も悪いし、まだ安定もしていない所もあるんだろうと思いますね。

ですからもし仮にあそこが利用できて、しかも交通の便さえ上手くいけば、新たに埋め立てるよりも、広大な土地があると考えておりますので、そこはこれからの考え方だと思いますけれども。外港から向こう側へ行くというと、非常に時間がかかるという事もありますけれども。土地的には、埋め立てる思いをすれば、そこにあると、それぐらいの認識です。埋め立てるんだったら、あそこに道路を通していくのが一番早いんじゃないかなと思えますけれども。

永原副市長

今、金子先生がおっしゃったように現実の話としては、新たに土地を造るというよりも、今ある土地を使っていくのが現実の話なのかなぁと思います。そういう中でニュー加賀島計画に則って一応を造られた。まだ使い道が決まっていないですね。というのはまだ土地として成ってないんです。まだ途中なものですから、あそこをどう位置付けていくかという事が重要であるというふうに思います。

それと、もう一つ港にもまだ、いろんな空いている土地がありますけれども、実は公共用地は全然ないんですね。県の用地が1ヶ所だけあります。けれどあとは、みんな民間さんの土地なんですね。だからこれを我々は先にこれこうするんだ、とはなかなか出来ないんですけども、今空いている土地に金子先生がおっしゃったようなことを積み重ねながらエリアとして、そして南インターとかと繋いでいくのが現実の話なのかなぁと思います。

ついでに蒲島知事があの八代物流拠点構想と言われた時に、われわれはドキッとしたんですね。八代とハッキリ言われたので、県南の首長さんたちは、腹かくとではなからうかと思っただんですが、そういう話しをしていく中で、じつは県南の首長さんたちは、みんな喜んで頂き

ました。

八代に頑張ってもらわなあかん。われわれは、そのおこぼれをもらわなばいあかん。

大きな企業を持ってこないといかんとは思っておらん。八代に頑張ってもらって我々はそこに通ってもらえばいいんだ。だから一緒に、頑張りましょうという声をあちこちから言って頂きました。そういう意味では、あの県南のみなさん一緒にですね、物流拠点として頑張っていければ、現実にもそういったものになっていけるんじゃないかと思えます。

小早川副議長

物流拠点構想ですが、是非、皆さん方の力を合わせて実現化をしていきたいと思っております。先ほど、金子代議士あるいは副市長からたくさんの貴重なアドバイスをいただきました。皆さん方の大きな期待がかかっているんだなぁと感じたところでありますし、県議会の中でも積極的に具体化出来る様に実現化できるように頑張っていければと思います。

ちょっと八代天草架橋の話をもう少ししたかったと思いましたので。

今日は天草架橋についてはよかったな～と思いました。金子代議士が国家プロジェクトもありうるのか、ですね。国家プロジェクトもありうる、というのは国の方で3分の2を入れんこともない、というような発言をされた、ということ…。

これが先行してはいけませんけども、県もですね自分達も県だけが、1人だけが、県だけが進めなければいけない事業ならば、非常に責任が重いという話で。なにか役割分担とかそういうふうな明確に位置づけていく事が、県の主体性を引き出していくのかなぁというふうに思えますし、え～夢を語ることも大切ですが、30年間、県議会の中でずっと言い続けてきました。

それが、なかなか1歩が踏み出せないというのはですね、やっぱり財源的なものだろうと思います。国がいくら出すと？という風な交渉もしていく事が大切ではないかなぁというふうに思えます。もちろん皆さん方も、負担をせんばん事だと思いますよ。民間も資金を捻出してそれだけ覚悟を持ってやる。国にやってもらうのも、県にやってもらうのも、税金です。私たちが払っている税金ですね。そのストックが国にあるか、県にあるか。

大きく持ってくるのが国か県か、将来的には私たちの負担につながっていく。あるいは私たちの孫子の時代の負担になっていく。どうせ出すことはあまり変わらないのですから。

まぁそういうふうな事で、一歩を踏み出していかなければならない時期かなぁ、とそういうふうにお思っています。

金子衆議院議員

国家プロジェクトにするといった訳ではなく、そういうことでいけば国が積極的に入っていくという意味ではですね、地元負担が少なくなっていくということであれば、自分の中では、そういうつもりでいきますけれども、これだけのものがある中でですね、そこに国家プロジェクトとして、掲げられるものであるかどうかは非常に難しいですね。実質的にそういう形で地元負担が少なくなっていければいい事だと思います。

それから、PFIについてもですね、本当に利益がやっぱりそう出ないでないとなかなか民間を通してくれないので、どういう形で道路を利用するかということですね。観光ルートとして使うのか、その辺の見極めも必要ではないかと思えます。(文責 上田・田邊)